



開講式風景

城山公民館成人学校 開校

～生活に潤いを与える学び～

令和7年度城山公民館成人学校が4月に開校しました。本年度は全25講座で新年度のスタートを切りました。今年も向学心に燃えた多くの受講生が当館に集いました。受講生の皆様には、成人学校でご自身にとって大変貴重な時間を有効に学んでいただき、講師の先生や同じクラス

の仲間たちと心通わせることで、より充実した人生を過ごすための一助となりますことを願っております。

そして、成人学校には3つの喜びがあると言われていきます。①学べる喜び、②学べる時間のある喜び、③多くの方と知り合える喜びです。そんな喜びが得られる楽しい成人学校ライフを送ってみませんか。

当館の成人学校では、定員に余裕のある講座もありますので、随时お問い合わせやご見学を受け付けております。この館報が受講のきっかけとなり、それらの喜びを知っていただけたら、幸いです。(館長)



発行所 長野市立城山公民館
電話 232-3111
編集 島田安彦
発行人 島田安彦
印刷所 富士印刷

管内の世帯数 (7・6・1)
第1地区・・・2,778
第2地区・・・5,446
合計・・・8,224世帯

「かんたん着物リフォーム」
講座を受講して



徳武 義恵

私は裁縫が苦手で、娘の保育園のお昼寝布団や図書袋、雑巾まで、義母に縫ってもらっていました。そんな義母が亡くなってから、娘が義母の影響なのか、着物の生活をするようになり、もんぺや作務衣を作ってほしいと言われ、自己流で何とか作っていました。

そんな折、この講座を知り、さっそく申し込みました。先生は自由製作を勧め、先輩のベテランの方々も素敵な方たちでした。ご近所さんや、知人が要らなくなった着物をどんどん持って来て下さり、それらの布地から、お返しにスカートやパンツ・ベスト等を縫ってとても喜んでいただいています。通うたび新たな

知識も増え、本当に参加して良かったと思っています。

「真子の楽しい英会話」
講座を受講して



中村 美枝子

最近長野市でも、駅周辺や観光地に多くの外国人を見かけるようになりました。勇気を出して話しかけてみたいと思いませんか。

でも、実際に向こうから声をかけられたら「ダメ・ダメ・ダメ」と、手を左右に振りながら後ずさりして逃げる！そんな時こそ英会話が役立ちます。もちろん単語だけでもよいのですが、会話ができれば気持ちのやりとりが可能。ご縁がきっかけで友達になれるかもしれません。

私たちの講師真子先生は、日本語も英語も堪能なので、とても分かりやすく教えてくださいます。しかも習っているのが実践的な英会話なので、すぐ役立つのが嬉しい限り。講座の日が待たれるこの頃です。

令和7年度

城山公民館職員
公民館関係組織

(6月現在)

館長 島田 安彦
係長 須田 公章
職員 金子みづ子
小川三枝子
若月 愛

▽第一地区分館
分館長 黒井 昭
分館主事 山口慶治郎

▽館報「城山」編集委員
編集委員長 萩原 道朗
編集委員 山口 美緒
山口 茂文
今井 一幸

▽城山公民館運営審議会委員
第一地区住自協会長 西澤 利治

第一地区福祉ワーカー 岡村 貴子

第一地区地域公民館連絡会長 小田切隆一

第二地区住自協会長 寺島 頼利

第二地区青少年健全育成委員長 松田 愛絵

第二地区教養文化部会長 小笠原 徹

公民館使用団体代表 柳澤 譽予

湯谷小学校長 丸山 隆
西部中学校長 丸山 真弘

特別寄稿

城山界限 地学散歩

〜執筆を始めるにあたって〜

戸隠地質化石博物館

田辺 智隆

城山公民館
周辺は長野盆
地の西縁部に
あって、山地と盆地の境界部
に位置します。その境界は長
野盆地西縁の地下にある活断
層がつくったものです。そこ
に戸隠連峰高妻山を源流とす
る裾花川が流れ込み、その裾
花川が運んだ土砂が堆積して
扇状地ができました。その扇
状地の上に、現在の中心市街
地があります。善光寺へ向
かって登る坂道は、長野盆地
西縁断層の動きと扇状地の発
達によってできたものです。
これまでも館報の連載で、
長野市街地の地質学的な見方
を紹介してきました。城山公
民館の地下にある湖の地層や
かつての裾花川が運んで
きた巨礫のこと、城山丘陵の
南東部の縁にある活断層や善

小鍋地蔵平より見た裾花川の谷と中心市街地

光寺地震、裾花川の氾濫や河
川改修、裾花川の水を使った
鐘鐺堰や水力発電の話など一
通り紹介して連載を終えたの
ですが、再連載を望む声が公
民館に寄せられたそうです。
そこで覚悟を決めて、再び執
筆することになりました。

今回は城山周辺で、これま
で紹介できなかった場所にス
ポットを当てようと考えてい
ます。普段は気がつかない市
街地の地下を流れる川、坂に
できた街のあちこちで見られ

る石垣などの違いも紹介しま
す。川や用水をたどってみる
のも興味深いし、石垣の石材
や積み方にもそれぞれ特徴が
あります。市街地もじっくり
見て考えてみると、大地の生
い立ちをさぐる手掛かりが隠
されていて面白いです。

また、安茂里や浅川、若槻
など長野盆地の西縁部の地域
も含めて紹介します。たとえ
ば、浅川で掘り出された石油
やクジラの化石、安茂里で採
掘された白土、善光寺地震で
生じた地震断層など、長野盆
地西縁部の地質学的な見どこ
ろなども紹介したいと考えて
います。

この記事を通じて、普段暮
らす足元の大地に関心をも
ち、現在の長野の大地がどの
ようにしてできたのか、とい
う歴史を考えていただけれ
ば、と思います。そして、先
人たちが知恵を積み重ねて災
害や水不足を乗り越えて現在
の長野市街地ができてきたこ
とも考えてほしいと願ってい
ます。

退任のごあいさつ

前館長 小池 英樹



伝統ある城山
公民館で6年間
お世話になりま
した。この間、
いつもご支援ご協力をいただき
ましてありがとうございます。

日々、成人学校受講生や来館
の皆様のお姿から、生涯学習の
大切さを学ばせていただきまし
た。

今後も、城山公民館が多くの
皆様に多様な学びの場や機会を
提供する中で、生涯学習の地域
センターとしてお役に立てれば
幸いです。

退任のごあいさつ

花井 敦子



お世話になりま
した。成人学校、
サークル活動で
皆様のじつくりと学びを深める
姿に感銘を受け、心を豊かにす
る大人の学び、そしてその時間
の大切さを教えていただきまし
た。

歴史ある城山公民館がさらに
活気にあふれ、学びの輪が広が
りますよう、心よりお祈り申し
上げます。ありがとうございます。

着任のごあいさつ

新館長 島田 安彦



コロナ禍の期
間、常にご利用
者ファーストで
乗り切つて来ら
れた小池前館長からバトンタッ
チしました。

4月に成人学校が一斉にス
タートしましたが、受講生の皆
様の向学心に満ちあふれた表
情や城山の坂を歩いて通われる
方々のご努力に頭が下がる思い
がしました。

皆様に気持ち良く過ごしてい
ただくことを念頭に努めてまい
ります。よろしくお願い申し上
げます。

着任のごあいさつ

小川 三枝子



ご縁をいただ
き公民館で勤務
をさせていただきます
くことになりました。

した。善光寺のお膝元、歴史あ
る城山の地で皆様と交流できま
すことをとても嬉しく思ってお
ります。

人生100年時代を豊かに
生きるためには、健康第一に、
学びや挑戦したいことを思いき
りやっつけていくことが大切。公民
館活動・運営がその一助となり
ますよう、精一杯頑張ります。



旧市役所庁舎

正に私が生まれた年まで！
その後、旧庁舎は昭和40年11月に青少年の家となり、昭和58年1月に2階の一部を若松町集



若松町は、
南側は長門町
に接し、若松
町交差点から

東方向に国道406号をはさんで東西に長い町です。若松町と言うと旧市役所と若松町交番の2つを思い出される方が大勢いらつしやると思います。

旧市役所においては、明治30年（1897）に長野市制施行に伴い明治31年の11月13日に若松町に長野市庁舎が建造され

昭和40年（1965）に緑町に新庁舎を構えるまでの間、我が町に存在していました。



若松町交番（建替え前）

会所として使用する形となりました。

旧市役所の敷地の中ほどは長野市建設部道路課倉庫として使用されておりました。その他に防火用水池が設置されており、その横には若松町児童遊園地があり、多数の遊具が子どもたちの遊び場でした。

その後、平成2年（1990）8月には旧庁舎の取壊しが行われ、平成3年2月に市営若松町臨時駐車場へと変わっていききました。その駐車場も国道406号の拡幅で多くの若松町の住民とともに姿を消しました。

明治31年に庁舎が建設されて以来、93年を経て若松町も大きく変貌を遂げました。

若松町交番に關しましては、旧市庁舎に隣接する形で明治34

年9月に大本願邸の南端に沿い大門町に面していた場所（元善町官有地）から長野警察署が若松町に移転新築されました。

この建築には、当時の金額として、9861円90銭の費用がかかっており、その後明治37年6月には6坪の物置一棟の増築が行われました。現在の交番は平成5年に完成。

私自身この町に生まれ育ち60数年という歳月が経ちましたが、現在町民の数も減り、育成会や老人会等も無くなり、寂しい町へと変わりました。



旧市役所庁舎解体後

次なる世代が若松町を背負っていくのかかわらない状況です。歴史は繰り返されると言いますが、人口の減少には古い町ほど難しい局面を迎えておりま

す。新しい時代を考える時が来ました。（「長野市誌 第5巻 歴史編 近代1」を参照）

折々日記 湯福の杜で「ききなし」

萩原 道朗

善光寺本堂の北西に善光寺三鎮守の一つ、湯福神社があります。その境内には、樹齢900年にも及ぶ樺の老木が3本。市の天然記念物に指定されていますが、淡く芽吹きが始まる頃には、早朝から様々な野鳥が恋人探しても始めたかのよう

に、囀る声で騒がしい。夕方ともなれば、杜の中から「ブッ・ポウ・ソウ」と啼く鳥の声が聞こえてきました。我々の耳には仏・法・僧の三宝を唱えているかのように聞こえますから、渡り鳥も、善光寺参りを喜んでいるようです。その鳴き声の主はコノハズクで梟の仲間。

そこで鳥の鳴き声を覚えるのに「ききなし」という方法があります。知られたものに、^{うぐいす}「不如帰の「特許許可局」、鶯の「法・法華経」「焼酎一杯グイー」と啼くのは雀よりも小さいセンダイムシクイです。ところで、晴れた日は春告鳥（鶯）の声が似合います。今年は早いうちから上手に鳴き始めました。きつと、マスクを外したに違いありません。

ご案内 今後の市民講座 お申込みを お待ちしております

心ときめく
スタンドグラスアート

光にあたるも素敵です！
初めての方も大歓迎！

今回は熱帯魚がモチーフです

日時 7月10日(木)13:30~16:00
場所 城山公民館 本館 102教室
講師 山口 利一さん (スタンドグラス作家)
材料費 3,800円
定員 8人(要予約)
持ち物 ゴム貼り手袋、エフロンマスク、筆記用具
申込み 城山公民館 232-3111 (平日)

身体にも心にも優しい
癒しの匂い袋づくり

天然の香料を使って、あなただけの香りをつくりましょう。

7月15日(火)10:00~

会場 城山公民館 本館 102教室
定員 15名(要予約)
材料費 2,000円(匂い袋×2つ)
持ち物 筆記用具
申込み 城山公民館(平日)
☎232-3111 講師:高橋 郁美さん (お香の店 吉美 店主)

四季の陽ざしをあつめて輝く
サンキャッチャーづくり

Sun Catcher (太陽をつかまえるもの)とは
クリスタルガラスを窓に貼り下げ、日光をプリズムのように映し出すことで、お部屋にたくさん虹を映して楽しむインテリアアイテムです。
好きなパーツを組み合わせて、サンキャッチャーを作ります。(大小各1本)

7月23日(水)13:30~

会場 城山公民館 本館 102教室
材料費 1,800円
定員 8名(要予約)
持ち物 ハンドタオル・筆記用具 (必要なら手袋も)
講師 高橋 由紀さん (Clifon オナー)
申込み 城山公民館 ☎232-3111 (平日)

あひるくらぶ
親子でみそ工場見学

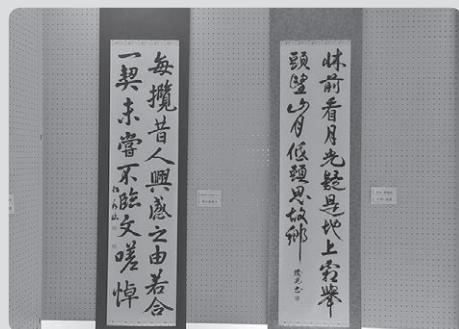
お味噌の材料は何だろう？
どのように作られているの？
味噌作りの材料や製造工程の工場見学を、親子で一緒に楽しみませんか？
お味噌の食べ比べもしてあひるくらぶ

日時 令和7年7月29日(火)
集合 13時 城山公民館本館
※バスで行きます。
場所 マルコメ本社工場(長野市安夜摩)
対象 小学生と保護者 定員 5組(要予約)
参加費 無料
持ち物 筆記用具、水(味噌の食べ比べ用)
申込み 城山公民館 ☎232-3111(平日)

令和6年度 第47回 城山公民館成人学校 作品展・学習発表会

城山公民館成人学校の1年間の学習成果を発表する作品展・学習発表会を、今年2月14・15日の2日間にわたり開催しました。

期間中はお天気にも恵まれ多くの皆さまにお越しいただき、受講生が熱心に取り組んで制作した様々な作品・練習を重ねたステージ発表等を鑑賞いただきました。
ご来館ありがとうございました。



書道初級



楽しくソーイング



囲碁入門 対局風景



かんたん着物リフォーム

悠遊 BONSAI「盆栽」
四季に愛される盆栽とわたし

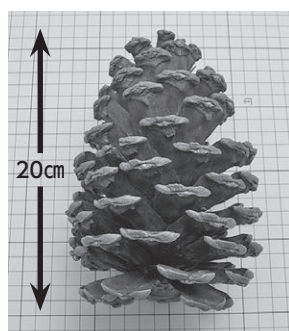
茶道 お点前



火よる太極拳



ウクレレのある生活



城山動物園に入つてすぐのカリフォルニアアシカのプール脇にそびえ立っているのが、『大王松』という名前の木です。北アメリカが原産で松ぼっくりは20センチメートルと一般的なサイズに比べ大きくてびっくります。
因みに同園売店で買うことができます。



あちこち
スナッパ
城山動物園の
大王松
(だいおうまつ)

新刊図書のご案内

青瓜不動	宮部 みゆき
法廷占拠 爆弾2	呉 勝浩
全員犯人、だげど被害者、しかも探偵	下村 敦史
富士山	平野 啓一郎
牧路の狼	西條 奈加
なんになる？りようりずかん	せきぐち みほ
セルフィの死	本谷 有希子
おふろ	いちろう
遙かな夏に	佐々木 譲
ペランダで愉しむ 小さな寄せ植え菜園	たなか やすこ
老人初心者の青春	阿川 佐和子
ぶたのんのそーとそーと	ふくだ じゅんこ
風待荘へようこそ	近藤 史恵
まるごとちぎゅうレストラン	チヨー ヒカル
小説	野崎 まど
料理は知識が9割 あつぱれ！ われらのてんぐさま	シェフクリエイト 合同会社 オノガワ アサコ

編集後記

田辺智隆先生がいったん連載の筆を擱かれる…と、お知らせしたのが昨年の9月発行号のこと。しかし、お話の末、今号からまたご執筆してくださいました。地域のことを地質学の視点から紐解く内容は、見慣れた風景の新しい顔をみせてくださるようで興味深く、連載再開の報告を聞いて心からうれしく思いました。年2回掲載の予定です。言わずもがなとは存じますが、みなさまどうぞお楽しみに。

(山口美)